

平成 2 1 年

第 7 回仙北市議会臨時会

市 政 報 告

仙 北 市

平成21年第7回仙北市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様方には、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

本日、私が市長に就任させていただいてから、初めてとなります仙北市議会臨時会におきまして、今後の市政運営に対する所信を表明し、議会並びに市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げたいと存じます。

初登庁からちょうど1ヶ月が経ちました。改めて、ふるさと仙北市の可能性を強く感じています。有形無形の有望な資源が幾つもあります。ただ、それらを高度活用できているかといえ、まだまだ発展途上ではないか、活かし切れていないのではないかと感じます。この現状に加えて昨年来の世界的不況です。若干持ち直しの傾向が見られましたが、先週末、ドバイから始まった国際的なドル安傾向に起因した急激な円高により、先行きは全く不透明です。ただ、チャンスはいつもピンチの姿を借りてやって来ます。大切な心持ちは夢を諦めないこと、そして悲観しないことです。今こそ、大人は子どもたちに、勇気を持って新しい合意づくりに取り組む姿勢や、可能性を追い続ける生き様を見せる責任があります。ふるさとを拓こうとする行動は、波紋が少しずつ広がるように、次代に共鳴することを信じます。

平成の合併は、日本の行政史上でも歴史的な出来事です。地域主権の理想のもと、生活圏の拡大に一致しない行政区域の是正や、新しいシステムづくりが目的であったはずですが。内側から湧き上がった住民ニーズでもなく、またその意識を醸成する時間もなく、主目的が路傍に置き去られたまま、国や県が取った姿からは、財政難を乗り越えるたった一つの手段であるかのような印象を受けました。ただ、平成20年度末で国、県、市の債務残高を一人あたりの額で計算すると、概数で恐縮ですが、国分は660万円、県分は100万円、市分は80万円になります。合計で840万円もの高額な借

金が、私たち一人ひとりにのしかかっている勘定です。これが現実です。いきおい国の政策や県、市の行政に失望している人も相当多いのではと思います。仙北市は真にこの沸点で生まれました。苦悩を抱えながら、未だ恩恵を享受するには至っていませんが、歴史を刻み続けていかなければなりません。行政に携わる者、議会の責任は、ますますその重みを増していくはずで、市民の皆さんは、後ろ向きの議論を裁ち切り、各々の立場で、いかに最善を尽くし、それをどう市の発展に連動させるのか、この一点に思いを馳せていただくべきです。ありもしない旧町村間の壁にもたれかかり、無意識のうちに増幅しかける排他心などは全く無益です。無いものは補い合い、有るものは分かち合いながら、一丸となって夢をカタチに変えていく、そんな覚悟が必要です。まちづくりの主役は、間違いなく市民の皆さんです。

これから「まちづくりの第2章」が始まります。市政公約でご提示させていただいた「明日を創る8つの約束」は、政策40項目とその実施年度、さらに平成25年度の達成目標を数値化してあります。大きく分類すると、第1に「市民の生活を守ること」、これは医療・福祉・防災力の強化、行財政改革の断行などです。第2に「所得の向上を図ること」、これは産業育成、雇用拡大などです。第3には「次世代の人材育成を急ぐこと」、これは子育て環境の整備、教育の充実、スポーツと文化振興などです。

私は4年の任期中、最優先で医療再生に向けた環境づくりを進めます。政策的に新たなシステムを構築するため、新市役所の建築、公共事業の一時的抑制など、歳出削減がしばらく続くかも知れません。一方で、市民の皆さんの所得を高めることが、結果として市の財政状況を好転させる最も確実な手法という判断から、物品や委託業務に関する地元発注率の向上政策、ワークシェア、食品産業群の育成、これらをプロデュースする総合産業研究所の開設を想定しています。また行政との距離感を縮め、地域運営を地域に暮らす市民の皆さんに担っていただく市民サポートセンターの設置も促進しま

す。農林畜水産業などの第1次産業は、生産・加工・流通・販売の各ステージで徹底的に支援します。新エネルギー・新素材産業の可能性も強力に探ります。観光産業では既に著名な角館と田沢湖を統一ブランドとして組み立て直し、国内はもちろん、アジア地域なども商圏ターゲットとします。角館の町並みや、田沢湖畔、乳頭・高原・玉川・水沢等の温泉郡は、観光産業重点特区として再整備を図ります。温泉を活用した「癒しと医療」のまちづくりも具現化します。現在の市役所の組織体制で、これらの取り組みを進めることが困難と予想されることから、来年度は関係するセクションの機構改革を行いたいと思います。移行準備を進めるために、市役所内に新たな組織充実を図る人事を発令しました。

私は、市民の皆さん、市民代表の市議会、そして市役所職員と一緒に仕事ができる喜びで、胸がいっぱいです。市民生活を支え続けるエンジンになります。選挙戦は終わればノーサイド。心を一つに仙北市発展に向けて、ご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

続きまして、議会の皆様にご報告申し上げます。

初めに、新型インフルエンザに感染した患者の死亡についてであります。報道で御承知のとおり、秋田市の医療機関に入院していた大仙保健所管内の40歳代男性が重症インフルエンザ感染症により死亡しました。男性は、22日から発熱があり、23日に医療機関を受診、迅速検査でA型陽性となったため、タミフルを処方され、自宅療養しておりましたが、24日未明、同医療機関に心肺停止状態で救急搬送されたものです。蘇生後、ショック状態、多臓器不全状態のため秋田市内の医療機関に搬送され、集中治療室で治療を受けていたところではありますが、28日未明に亡くなったものであります。亡くなられた患者さんの御冥福をお祈りいたしますとともに、御遺族に対しまして、心よりお悔やみを申し上げます。

市では、11月28日午後新型インフルエンザ対策本部幹部会議、29日8時30分からは本部会議を開催し、対応について協議、次のことを実施し、市民の方々に注意を促していくことにいたしました。

11月29日、30日の動きであります。1番、田沢湖、西木地区については、防災無線による注意喚起の放送。2番、角館地区については、広報車による巡回広報活動。それから、この数日間のうちにすべきこととして、1番は、各新聞への注意喚起チラシの折り込み。2番は、各戸配布による注意喚起チラシの折り込みを考えています。市民の皆様には、感染防止対策の徹底と、発熱等の症状があった場合は速やかに医療機関を受診していただくようお願い申し上げます。

続きまして、新聞等で報道されましたが、11月7日、当市教育委員会職員が岩手県滝沢村の国道46号においてミニバイクと衝突するという交通事故がありました。ミニバイクを運転していた雫石町にお住まいの51歳の男性は搬送先の病院で間もなくお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、事故の概要および事故後の対応等につきましては教育委員会より報告させていただきます。

続きまして、今臨時会でご審議をお願いする案件につきましては、専決処分の承認2件、条例関係7件、予算関係1件、人事関係2件の計12件でございます。

何卒、慎重審議の上、ご承認、ご可決賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、主要事項についてご報告申し上げます。

平成21年秋の褒章、叙勲受章者についてであります。樺細工の伝統工芸士で、「現代の名工」であります藤村志登磨氏が業務精励により黄綬褒章、仙北市消防団副団長であります高山藤悦氏が消防功績により藍綬褒章を受章されました。また、黒倉堰土地改良区理事長で元仙北市議会議員でありました細川俊雄氏が土地改良事業および地方自治功勞により旭日双光章、元角館町収入役、助役でありました佐藤勇太郎氏が地方自治功勞により瑞宝双光章、元大曲仙北市町村圏組合消防司令長でありました佐々木賢三氏が消防功勞により瑞宝双光章を受章されました。

この度の受章は、永年にわたる職務の精励や功績、功勞が認められたものであり、心からお祝い申し上げます。

以上、諸般の報告を申し上げます。どうか、全議案についてよろしくご審議くださるようお願い申し上げます、招集のあいさついたします。